



中村俊定文庫  
文庫 18  
89

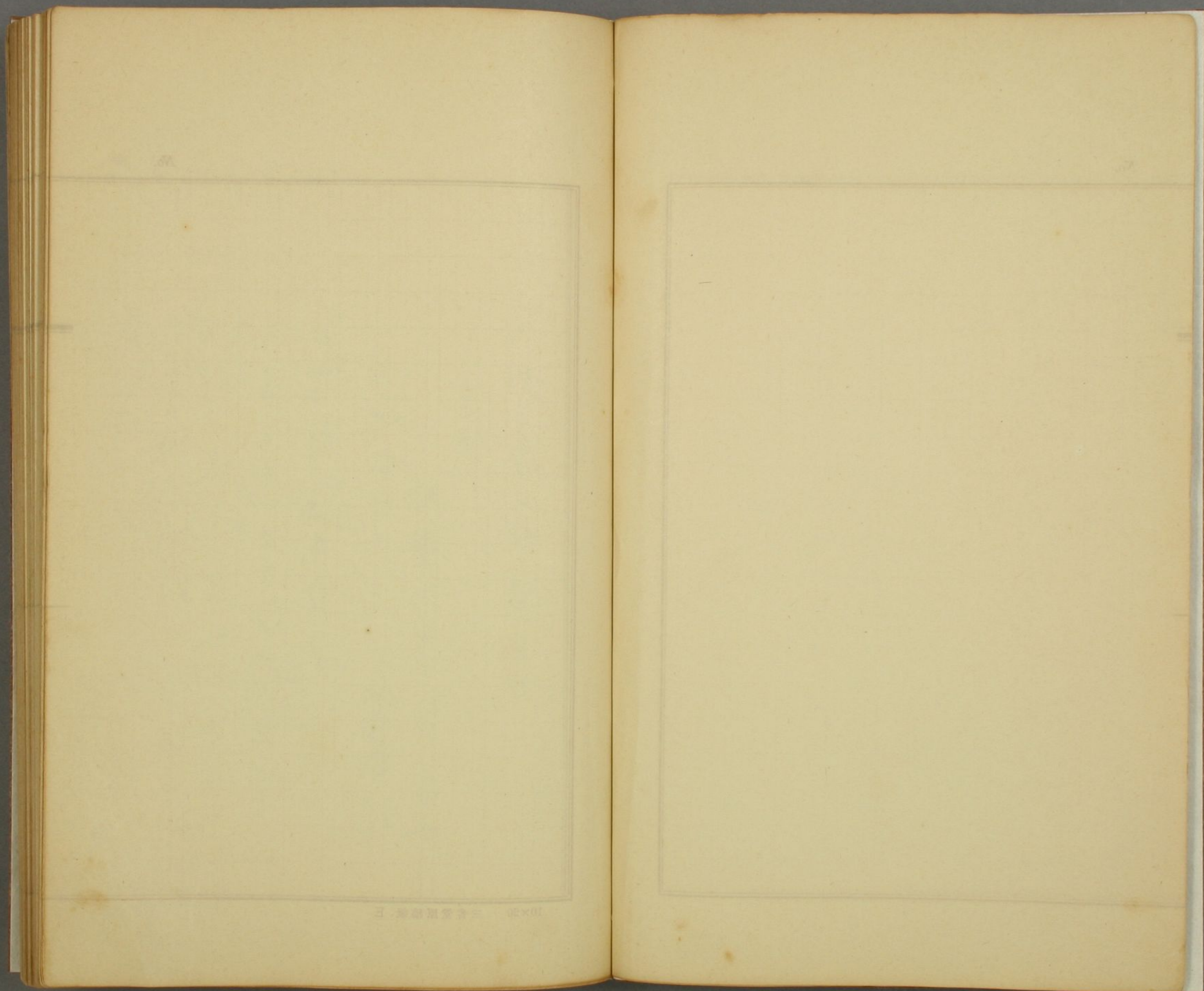




誹諧坂東太郎

全













誹諧坂東太郎卷之一

元日

御家门や偃蓋の私國の春  
身よとまや海の諸環ふ十圖  
御奏者役千代を兼そり今日の出  
層い起う層い春水や水や春  
時なる哉大樹の茶へ花の春  
礼取けふの袂や鼓の子賣  
いっくーの浪の飛走や四好の春  
若松や茯苓も猶 御代の春

調梳子  
風虎  
調由子  
春江  
櫻木  
青河  
春考  
申候



桜鯛  
箱鳥  
帰雁  
蛙  
躑躅  
海苔  
雑春

上巳  
鶴  
雛子  
春月  
春  
永日

桃  
鳥巢  
蜂  
草  
欵冬  
呼子智



酒の霽ししれそめけり 飾松  
 太ふくの青垢系ふ風もやし  
 古代の敷や東海及の松葉の香  
 房州山後志よ江戸の舌よ来は  
 明たよ物とハぢしよもの、春  
 書初や口上の覺けふの礼  
 鯉のりる猪口の水上幾代の春  
 玉を春甲代よーたうふ虎つひ  
 梳れいこそ 躡虎の皮も和玉の春  
 今朝へけり 鶯 雜 糞 雨 路 禮  
 二三子  
 如山  
 口麩  
 洞和  
 出山  
 兼豊  
 者言  
 言水  
 立詠  
 一鉄

掛鯛や八重の汐風を窓のト  
 大ふくや宇治の橋守物同ほお  
 若やくや鳥の童子にし今朝ハ春  
 枝良刀今そ枝折し即調の春  
 梅干や汐風 越しく 衡の白  
 厚房や乾日よ句お下るの舌  
 齒固や千代見も巖まかき砂  
 出大法松の紫も幾代不易の舌  
 若恵比須守れ江戸橋三枚目  
 縄やつたふ千代のおめー玉の春  
 安昌  
 心棘  
 水成  
 可躍  
 調童子  
 調泉  
 若風  
 実利  
 杖権  
 調右



本の字極字光周し西苑の春  
師奉書は千代や促す國の春  
松若し千代の染めき伊豆の春  
神よや風やいろくも木大夫  
はくましく翅もあぶし酒の春  
赤貝のからや糸初餓鬼大将  
やま目や鞆は甘むす祖の春  
師代の千の襟もと美童美衣始  
忠皇や千代はもろさぬ弓始  
師代を續く扇止舞の大遊亮の口

調鶴  
丸石  
西望  
高夕  
高自  
濯資  
立允  
調試  
潤玉  
音色

風亭し師江之戸の宴春の春  
門の春たてのなまびか源氏の師代  
質も出く物中てやうん師代の春  
去年ふくしこかぬの襟心の今日  
廣蓋や天の美久山美衣始  
よいやはいか君か代むきの馬の春

自鶴  
紀子  
宗也  
洞西  
全琴  
文丸  
言水  
調和  
高懐

氷様

砂糖こそ歯ゆけ親仁の氷様  
氷の橋地車なとハ様さそと  
五祥や功なり名とけて氷様

言水  
調和  
高懐



宝引

宝引や後家子引くる思の細

言水

水祝

あは、あなを金ひやせ水祝

立元

水道の奥聲かねとん水あふせ

一峰

子日

公家知りいつの子日の松ふり

調和

大思や松ふひあて子日えむ

昌夏

若菜

飛火中や扱汁鍋若菜摘

早昌

茶摘女湍の敷見む朝けしう  
か、名ひ茶摘水汲茶厨けり

調和

沼柴

踏歌

あはれそり急き京都よ諷

西石

あはれそり笹の小糸條の一所へ

西和

雲

三日月の離水や富士の影を

志山

仲の春碓氷崎崎あめいらめ舟

高言

香山やあまようかふ

丸石

風呂敷や巻の崎立八重

西望



春宵

藪医師やる啼く捨松  
雪か分て夢やハフむるを以就

調古

即志

即志之けり園八品の大世句  
態谷笠人かすーやな即志系

春近

張子の即教女ワシヤ水志子道

昌夏  
六

梅

糸士篁ハ誰袖少水一秋の梅  
花より浪紅梅氷子金魚船

鉄丸

花流

猫恋

老猫や 茨いゝち恋の園  
物干しの洗濯やらん妻とふ猫

調古

西調

春宵

隈とりのひさや東坡か竹の音  
呼声身り但今のハ春宵の音  
洗濯の朝日か音ハ春宵の音  
赤切の法や越後の音なき水

調和

調和

調正

才凡

春氷

白梅月 汗の氷 流るる

調茶

つとふ



初年

初年や常の字をいへば  
つづく焼初年近しく夕烟

言水  
宗也

佛別

七輪しおれや奈原の石佛  
涅槃像いへんや人同絹袴  
加る太の釈迦坊主揃や涅槃像  
釈迦説やおれんよ降る手向鐘

言水  
安昌  
丸石  
丸

春句

蛇酒や守敏と空しく春の雨

昌辰

柳の柳鏡

下産る流柳もたもなうらり  
道邊の朽木の柳もな緒し  
門の柳猿屋木傳女詠式  
度櫛や風跡足る柳陰  
人をつるやもれぬ娘の柳鏡

潤鶴  
丸石  
鉄丸  
同  
濯資

野記

鬼聖老きれハ女中のすたく也  
仙の杖杖朽て老翁の暮石盤也

安昌  
丸

土筆



土筆 17日 八百屋の日記付

西山録

蕨

端 絃や 谷のうけし下 蕨

調古

椿

木 貴油 漲る 玉や 八重 椿

西和

花

田地 塞り 吾妻と 艶し 花 續

調管子

上 陸式 からの 預る 花の 花

高坂

色 羅紗の 袖 ゆる 山よ 花の 向

曲言し九

毛虫 嫌い 陰 忌れ けり 花 蓋

調管子

花ハ 四方 科人多し 武門の 名

調花子

鮎 餃や 風のもろ けり 枝の花

調川子

花の 花を ぬき 流る 床に 花の 花

山と

花を 了し 西の 形 氣 嶺 比 雲

調和

又や 見ん ふい づん 惜 玉 香の 意

香言

利 發 之の 花 待 比の つら せよ

一決

花 言 いた 花 待 山の 氣 草 外

泉也

一分 又 間 枝 送 之 花 四方の 意

調幸子

土 踏 ます 大豆の 教 尺 玉 四方の花

可躍

花を 身と 歩 運 けり 椿 拾 けり

調棧



宿急き 花よハ香しなりけり  
 樽餘や 上野の余波子母の花  
 香可配り 百ヶち集花の札  
 花や雲袖を 落来る 龍珠の色  
 白雲や 上之の目よハ花盛  
 咲花の老を 目知人や 峯の雲  
 さの之目よ 見る物て 竹の花  
 兼好を けり 風詩篇の 花人なり  
 四車より きたり ぬを 踏 危る 春  
 陽の 垣 花よ 岩木 けり 七端帆

調古  
 立松  
 調如  
 調鶴  
 丸之  
 秀山  
 自語  
 重丸  
 西嶺  
 西個

待花よ 花あけ ぼや 葉若葉  
 水糸床 四方の 明標 餘波の 意  
 よいり 嵐 禁下の いきり 肩の花  
 見く 坐天 嵐ハ 思ふ 冬 の花  
 る ち 花 けり 花ハ あり 嵐の 花  
 謙淑や 花よ 思ふ 田越の 峯  
 今より 上野 女中の ため 息を 曇  
 積る 見よ 花見の 金と 江戸の 船  
 花店し 春 反 違ハ 花よ とも  
 縫着 屋 姫 花よ 四方の 山

和鶴  
 鉄丸  
 調試  
 西旅  
 西調  
 西望  
 宮庭  
 二松  
 調水  
 一峰



焼耐やあゝ文へあおつたの山  
 太夫 拾子 せめてハ音をとの山  
 常 香し煙絶 断り 花の山  
 是 摺や 露 ち 法 作 意の山  
 ちの 手 の 甘い 物 花 月 と 意  
 花 ちりて 杖 賣か 樽 恨 たり  
 独 年 尚 香 半し せ 梅の花  
 了 集 了 此し 簪の 栢 浅 花の 音

吉野まろく

花の音まじろの母えん吉野川

立休 洞路 鉄丸 和路 立兒 調子 調泉 昌友 洞雨

あゝまろく

見ぬかんの花うし 野の 菊 と の む  
 日の 出 花 四つ 猿 亦よ 意の 樽  
 人よ 衣 裳 新よ 出 折 山よ 花  
 待 意 や 翠 子 又うへる くら 水 樽  
 鐘 巻 や 着 音 を 恨 の 花 か つ 々

様

江之 中 や 神 の 十 月 様 月  
 山 嵐 去 世 う っ ち 初 様  
 土 産 め い わ く 風 の 物 の 山 様

凡音 立休 洞和







幾世経玉表ういふ草の餅  
 うむがおて、まき拂り右離  
 新う餅 塚家の八重白離  
 手道具や荷箱の孤離の桃  
 何臺の木のとめん 今日の海  
 けふそ塩干岩百失お飽  
 今日そ塩干本道出 岸の松  
 塩のまきをふむやぬの海  
 俣庇今日うゆ干の物やぬ  
 砂土壘干塩や游く堺所

立派 洞西 洞泉 田 丸石 重丸 丸高 決丸 夕浦 立吟

川や子赤き山に穴一干浮のりふ  
 大なかし 多ふりあや巴の筒う  
 調和 牙丸

子をつれて曾慶や揺ふ桃の陰  
 豪言

松鳥の入り子さあふ、松くら代  
 西反

松鳥や五百の卵うまかし  
 牙丸

鶴飛てやき 眞 踊りり小摺許  
 古茶

鳥巢 竹鳥情



雀の巣もとの 葦原に 留るり

或所方々

お側近う 特々々々 心の鳥

高言

留雁

原もとき上 野見 控え 留鳥見

潤和

食粒や あかり 降る 越の山

言水

あけり 獲ハ 獲手子 降る 原之り

立元 一峰 16

雉子

ゆり 壺を 山家 を 動瓦 雉子の 音

西和

蝶

日乾り 花の 胡蝶 や びつら

一峰

蛙

如 雨 音 行 梅の 蛙 啼ま けり

潤和

岸 や と けり 定めぬ あま 蛙

調巴

題 や 蛙 心の 水 の 底 くら

自臨

春月

灯心よ 蟹 鍵の 限と 朧月

一峰

莖

馬 継や 荒 田の 畔の 莖 粥

潤和



脚躑

あひくさ いはぬハホそあれ岩つじ

五言古

岩

在口豆腐浪そまなまゝ岩葛

言水

縁なる式むすほぬぬ又岩の花

安昌

岩の棚を染の松山それハ磯

立克

歎冬

山吹や目あゝひ葉花の春

安昌

山吹や井手の下常一と包全

西石

悔茗

のり汁や同じ清の貝砂子

九石

永日

春の日やむう一咄ハ朝茶の子

調和

春り朝八百日の懐路砂土ま

西望

呼子鳥

限一々房山路う隔つ呼子鳥

調路

西望いっふ又吉村土の奥の呼子鳥

入丸

雜春

母の追憶

登りうきうき一昔の春よ今更袖

高言



春うりや交陣地をきく際竹  
言水  
うきうきけりお紫の山葵竹の籠  
正反

白魚や箆貝干ひましろ竹の音  
西詠  
立や縁合も拾ぬ松の千代  
才凡

三月尽

いよやのかま跡て物して郭公  
調和  
武士の名を公家流に詠者の春  
調玉  
都の春四方の出菜屋の秋之  
高沼  
兼子あらしの嵐も木この春も  
高言  
上

誦諧 坂東太郎 題目録

夏部

更衣

餘を

灌仙

誦鼓名

若竹

故

鴨飼

樽



五月雨  
藤子  
蟬  
海凝草  
暑気  
扇  
雲峯  
御  
舞

22  
上 7

21  
上 21

誦諧坂東太郎一巻之二

更衣

弥右衛門やまろふ今朝志の更衣  
菰時守し妹か手つきの更衣  
嘆気声や世帯の吟衣うん  
吉野初瀬去妙成ん衣うん  
衣うんやまのふれと裡を  
まのふの径丸寐や夏と更衣  
綿ゆきや酒まうん水小者部屋  
明て今就乞食の去ん衣

高臣  
調和  
早昌  
調陰  
丸石世  
調泉  
調古  
言如



柳 檜 部 子 残 の 更 衣

牡丹

去 取 う へ 追 涼 子 なる

風 色 し 色 を 雨 神 白 牡丹

牡丹

杜 若 沃 途 や け て 鴉 けり

角 罎 の 中 けり の 話 や 牡丹

角 罎 子 縫 や う けり 此 けり

餘 花

残 世 花 若 紫 若 後 家 若 流 々

不 丸

織

山 中 か 新 秋 し けり に 若 紫 の 花

扱 い 残 花 若 けり けり 忍 の 園

新 樹

桶 下 や 木 の 下 や 忍 の 高 雄 山

散 けり けり 食 けり 下 竈

柏 子 木 し 若 紫 子 珍 々 木 玉 成

卯 忌

卯 忌 や 墓 残 痛 か 垣 の 隙

卯 木 垣 や 留 士 へ あり 枝 折 山

山 や 若 根 陀 骨 乱 々 卯 木

昌 友

安 昌

如 流

如 流

調 和

孫 望

昌 友

孫 望

孫 望

黄 吻



其理小風 卯の花垣七詠可也 実延

灌佛

龍王湯うぶ湯や下屯うぶ仙 言如

生母友やうぶ水とくし新迦既 泪吟

赤梅檀木性の仏生れ 昌友 24

佛ありうぶ湯の加減指とさす 泪雨

新茶

今漬桶糟残りけり新茶好 高言

老眼やたき右戻せて新茶をき 黄吻

郭公

郭公坂赤たき水くし 高言

しとれ枕寝荒る娘し子規 泪子

寝させさうむ打胸つ子規 泪蓋子

或市方より

榻待お目やまぬし 泪和

人ともや声の梅つき郭公 泪泉

所思り流休玉ねこそあれ子規 泪紫

枕の着替ふあう子規 西孫

羨恋枕神事ハ神郭公 黄吻 25

時そ医師女子の琴引郭公 泪橙



あの雲や在ふり子規  
 つんたうや 吾の心ぬ 郭公  
 時多かりハ月こそ眼よれ  
 おく耳よ若の敷 子規  
 郭公 羨か うつ、う耳せんさく  
 中の鼻よ耳いしーれ 子規  
 怪口や 難題 くる 不とさす  
 郭公 羨 詠ふさく 當太さ  
 行灯と 門むらゐし 不とさす  
 寐つぬぬ枕と 子規  
 立猪 西調 決丸 秀山 濯耳 可躍 丸之 味鴉 味調 経長

床つり 羨よ恨と 郭公  
 奇人や 地獄て佛 不とさす  
 奇学者の性根 子規  
 閑て思やれ あれらか 杜宇  
 面を やけた 天より 郭公  
 懐世式 犬ハ長 郭公  
 首の骨 嶺より 郭公  
 鳴鈴や 懐の 飛脚 子規  
 風情 子規 云 郭公  
 是や 子規 子規  
 調鴉 同 昌夜 可辨 風吟 西調 卜習 調玉 夕浦 調試



復踏のまな緒とて待り子規  
ほとくきすむりしの宿や床柱  
寐うへるやいつれの耳に郭公  
空つらし又男々あどハ子規

あ吟よ

誰もやい枕あもせよ郭公  
江戸流やんは山家何となく  
鳩あ喚やうつるもどしる子規  
宗鑑の代玉をなむとくは  
声まゝくし上戸のおり屋郭公

丸石  
湘巴  
一東  
雪枕

昌友  
調陽  
篤躬  
高孝  
高言

禿山や夜をしうする郭公

雲すれよそハ子規の日照又

誦鼓鳥

別れ告し者のあまうか誦鼓鳥  
禁ち木臭あやうんこ鳥  
潮和屋あな夕ちをうんこ鳥

葵

此用筑ちまゝの葵散りけり

祭

幕一の八重をの余波や祭客

才九  
同

高孝  
調陽  
昌友

才九

湘泉



祭客やう北神山の春風

丸之  
28

着竹

玉祥の里の茂りや浮世杖

調和

初鰓

釣鰓女戒ハいうま禪徳寺

沾葉

旅りよ

関の埜水古里意し生鰓

吉雲

常

猶計や浪の春玉ゆく常

洞川子

古杭の流り爪や宇治子飛常

常言

誰棟木や樗系の夕むらる常

調棧

さししとくや旅理あはれ行りる

法丸

法床や波うち際し飛常

疎計

内や中うし女中系物り常

濯資

突や常松葉の暇にまふの火

守信

夕闇やまふちを押さハ飛常

個樂

行そ歌人の眼届ききり

洞路

しめりふくち下女かみむらや飛常

牙丸

改

又うし改の音の明て本後所

常言



蚊の名 殊小紋やまゝ子夜街の袖 燿耳

蠅

る北尾やをのか<sup>カ</sup>才まつく蠅拂 丸石

額の浪ぬき身をうつや蠅の色 味噌

蠅や女まくら北ころし<sup>カ</sup>根山 西望

水鶏

飾屋し水鶏<sup>カ</sup>の鳴しを北里 水哉

おとろ<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>水鶏<sup>カ</sup>し<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>水鶏<sup>カ</sup><sup>カ</sup>梅 調子

水鶏<sup>カ</sup>ま<sup>カ</sup>せ<sup>カ</sup>音<sup>カ</sup>ま<sup>カ</sup>ぬ<sup>カ</sup>月<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>明<sup>カ</sup> 調子

又疾<sup>カ</sup>す<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>明<sup>カ</sup>て<sup>カ</sup>穂<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>戸<sup>カ</sup>水<sup>カ</sup>鶏<sup>カ</sup>じ<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>物<sup>カ</sup> 入丸

鶉飼

責啼し鶉縄返つて玉う<sup>カ</sup>馬 調和

端午

花<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>又<sup>カ</sup>下<sup>カ</sup>谷<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>巻<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>帛<sup>カ</sup>幟<sup>カ</sup> 曲言

宿<sup>カ</sup>そ<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>め<sup>カ</sup>伽<sup>カ</sup>羅<sup>カ</sup>北<sup>カ</sup>大<sup>カ</sup>橋<sup>カ</sup>酒<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>池<sup>カ</sup> 嘉話

下<sup>カ</sup>戸<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>沢<sup>カ</sup>上<sup>カ</sup>戸<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>沼<sup>カ</sup>人<sup>カ</sup>む<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>菖<sup>カ</sup>蒲<sup>カ</sup> 立詠

引<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>し<sup>カ</sup>甲<sup>カ</sup>塚<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>め<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>つ<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>石<sup>カ</sup> 方言

新<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>小<sup>カ</sup>旗<sup>カ</sup>鶉<sup>カ</sup>芳<sup>カ</sup>糸<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>七<sup>カ</sup>朝<sup>カ</sup>之<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup> 調和

蓬<sup>カ</sup>か<sup>カ</sup>孤<sup>カ</sup>和<sup>カ</sup>泉<sup>カ</sup>か<sup>カ</sup>新<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>人<sup>カ</sup>形<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup> 嘉話

菖<sup>カ</sup>蒲<sup>カ</sup>乃<sup>カ</sup>砥<sup>カ</sup>水<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>泥<sup>カ</sup>ぬ<sup>カ</sup>幾<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>け<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup> 調和



いつれ菖蒲一庄の袂節句買  
筈糰誰分そめて砂糖の香  
白湯や甘の味分のむき糰  
調玉  
香句  
西調

青栴 天くる香や砂糖漬  
才丸

檉 淀堤より  
肴節の句ひや 急く檉の木  
香言

橘 修治製法新の橘句ひより  
山夕

格子おろし 急橘の仇なり  
丸香

花柚 薫れ浪 くらぬやうに 花柚の流  
兄入中 新のむ 柚子友上戸  
調香  
才丸

五月雨 厚門や録さほしる 五月雨  
歌詠  
調玉  
調和  
山夕



五月のや思ふぬ川瀬桐油子 沓糸

上戸流の物の階けり五月の 丸石

五月の又室の八嶋や 調鶴

竹のや新の下や五月の 調幸子

五月のや箴組のりからうら 丸糸

簾張や枕まひく 五月の 立俣

天衣調市 名のやすや五月の 調泉

五月園

火のふも浅くぬ炭そ 五月の暗 西尾

うぐれ里猫の囁き 五月の園 洞雨

五月のや園路迷ふなれ買 大丸

早苗

理うハ早苗 子 立まけり 薙織 皇也

時え早苗 庄屋のむす子 況をむ 女言

麻子

祢らハれけりをのか星色の大眼乱 調和

短和

夏の和や寝ぬ目覚す老の牙 言水

短和と借浅 子 初けん 難念

夏月



新  
訪の池  
秋吟  
新  
訪の池  
秋吟  
新  
訪の池  
秋吟

蝉

唾  
蝉  
や  
松の  
葉  
折  
む  
今  
り  
の  
吟

調  
管子

氷室

因  
詠  
俗  
西  
水  
氷  
室  
と

調  
古

富士詣

富士詣  
平  
包  
う  
け  
や  
今  
西  
行

海凝草

高  
根  
思  
か  
情  
流  
川  
や  
と  
こ  
ろ  
と  
ん  
と  
い  
う  
は  
結  
ん  
三  
輪  
の  
山

調  
踏  
洞  
西

嘉祥

嘉  
祥  
海  
東  
山  
殿  
と  
り  
と  
り

才  
丸

白雨

白  
雨  
や  
袂  
と  
あ  
け  
て  
人  
の  
う  
そ  
か  
日  
今  
一  
時  
あ  
る  
と  
毫  
田  
白  
雨  
や  
と  
ま  
り  
の  
関  
札  
屋  
休  
白  
雨  
や  
う  
く  
ま  
替  
り  
の  
一  
羽  
深  
白  
雨  
や  
肩  
を  
や  
す  
め  
る  
合  
羽  
持

調  
泉  
調  
棧  
調  
玉  
休  
去  
舟  
西  
意



暑氣

如冬月ハいつウ来子けん裸崎  
正容ヤ暑さそあさる床柱

函山

汗

汗衣ヤ袖ノ浪こす沖ノ石  
汗衣ヤ簀の小笠又弥す風

調陰

西和

佐野大橋

駒うせよ汗打拂ふ風をりし

一鳥

夏衣

汗ヤ衣をのの深たす柄帷子

自陽

通

さうす之浪のうぬく白縮  
格子嶋風通水とや袖の友

疎計

慶与

解

女綯の解やたす玉竹簾

采政

解瓦う新や母毫の松の色

調泉

石州骨是し女の風こりり

和陽

金麻よき光そとあふくく

任陽

唐麻も三月の風は涼りけり

調城

納涼

定取以筆と乞掛る水々ハ



定家以時 多うめ 夏座敷  
調和

小横物 糸針 うちよ 涼みの新  
調幸子

物干や尾篋の外は 汗も涼  
調水

鴨河あま〜  
長明ハハに 忍ぶらん 涼も床  
一鉄

情も 諸白涼 ぎ中へは 汗を  
吉林

い〜の 松袖は 極々 下涼  
自臨

白泉  
盤負付櫛 和泉の大極 結ひけり  
調和

雲山亭  
山さか 土御三郎 雲の山 嶺  
立元

篁の林 つくろひ 物や 雲の峯  
調泉

風  
ふれも ころり 叩らぬ 流や 井田 風  
安昌

秋の 殿や 妹の 垣ぬの 風 留  
高丸

木曾 湯  
あけも や 衣を 脱すれハ 風の 波  
一鉄

茄子  
記 出けり 茄子の 赤雲 白茄子  
調幸子

茄子 焼煉の 表もし うれけり  
昌友



賣珍や篋の下子 びね花子 安昌

鄭

節桶や玉筥埋玉 谷の雪 高遊

土用干

それーやあがり昔恥けん 土用干 昌友

虫干や袂よ中つる秋の雪 潤鶴

虫干や吉野初濃を二夜の雲 流丸

雜友

木曾海まき

宿免の国さくのおハ唇よ喰れ 一決

盆山や春秋もなき友集 如流

蒸仙とハ思ひぬむの盤石 潤和

瓢箪やまねふまつなく牧の駒 丸智

御後

後うな嫉妬の床の境川 潤子

御後川 けおや通いの拂うさ 濯耳

仇賣やけおせくおの才色川 曲言



誹諧坂東太郎 題目録

秋部

初秋 七月 秋の 躍 鬼灯 高 芭蕉 廿四

一葉 岑入 秋蟬 秋撲 西風 忘方 萩 女郎花

桐 残暑 蕙条 花火 福妻 暮 萩 蘭

(空白)







一季

一葉や色谷まぢうす 赤大工  
一葉や揚枝の栗齒抜匠者

立詠  
洞西

桐

外家や洞の紫分の井戸茶碗

立船

七夕

蝙蝠や星の角鳴中一の橋  
忍ふや<sup>(三)</sup> 編笠を男七夕  
さゝの産<sup>う</sup>の<sup>り</sup>里や出合星  
ぬ<sup>り</sup>星や懐<sup>こ</sup>ら<sup>ひ</sup>の<sup>仇</sup>枕

言水  
立吟  
赤衣  
高虫

星や一夜を<sup>り</sup>思<sup>ひ</sup>の<sup>り</sup>女<sup>護</sup>の<sup>嶋</sup>  
橋返を<sup>り</sup>恥<sup>よ</sup>逢<sup>ね</sup>の<sup>名</sup>  
出合星<sup>化</sup>名<sup>や</sup>立<sup>一</sup>橋<sup>花</sup>  
星よ<sup>かり</sup>星<sup>相</sup>の<sup>屏</sup>風<sup>の</sup>星<sup>の</sup>松  
政<sup>安</sup>の<sup>女</sup>の<sup>星</sup>も<sup>意</sup>漸<sup>川</sup>

洞棧  
洞南  
洞玉  
洞在  
洞和

冬入

ろ水の峯<sup>い</sup>の<sup>吹</sup>らん<sup>不</sup>の<sup>具</sup>  
宇治橋の板の契<sup>や</sup>う<sup>け</sup>出<sup>の</sup>冬

赤衣  
洞和

雛若

沁<sup>と</sup>め<sup>え</sup>雛<sup>の</sup>若<sup>さ</sup>や<sup>紅</sup>旦<sup>風</sup>呂

西條



秋解

さんま 与て解の隙や秋の勢

五詠

秋蟬

蟬の蟬 何りまの木を抱り

調和

蟬や 秋登る音 何き 井木堂屋

五詠

不<sup>耳</sup>りま 産<sup>耳</sup>りうへ 巫すや 律の蟬

寄玉

鬼祭

線香や 壁子うへへ 聖具棚

詠系

手白草や 嵐子や 寺 聖具棚

調和

悔素 舞 廻 虫のそつら 玉祭

昌夜

麻<sup>カ</sup> 草の杖 草履 手向ん 瓜皮

調和

りものハカしの ところ やおせりま

一鳥

燈籠 や 左 家の夕暮 ちの屋

山夕

絵絹 灯籠 虫の音 途一 草の虫

調和子

接骨 や 堀 兼の井も 存ものを

調和

あつ時 ありのすさみ や 蓮の食

同

躍

殿様 のた お 荷の 神や 踊 舞

五詠

あつし しろ やと 神も 何者 や 世 踊

一鳥







望 弥

榴出さや標の紫し、る旁の玉 疎計

旁

旁海し、行合の櫓の鼻一柱

曲曲 言

吹綺の籠空し、うけり旁の窓

洞川子

恸哉や風早の旁作帆の浪

西望

さうやきをしむ手は、傍し船の旁

匠榮

鉄炮射望旁、百共掛神あま

洞古

尾上の瓊天は、釣り禁の旁

洞路

引窓や温泉の山の旁の洞

黄吟

昔評

也

權の屯のうきそや、舟坊主 立詠

麻酒の酔、船鳥の盃梅けり 洞棧

權の油り、尾野明よき 洞路

芭蕉

茶屋坊主、月ハ芭蕉もあやむ 洞賦子

廿秋

漆舟書うつしの、茶や袖の廿秋 洞賦子

武花、瑠璃や小舟、秋か下葉下しの音 旁燈

廿秋

松く嫉水、の飲きん 廿秋、上 洞雨

雨



侘人も一僕ハあれ 花の色 志山

懐新や訓 風の伊也 等行

たふれけり 下秋 調子

新千 乾百物 若此 調古

薄 棧のまゆきまゆき 乱 一坪

女郎花

旅行

馬士やほ 定めぬ 調試

蘭

棠ふがゆき 野 工云

虫

みやきりや日傭し 蓮 高章

音やとる虫の 乾 新言子

惚蝶 音 洞雨

鴨

いけ物や神より 鴨の百羽 懼資

星をたれ 鴨立海や 心牛

鶉

幾秋ある 小蛇の 如流



麻

麻の音や星は落来りぬ足跡  
山川やわさうハ綿（糸）負麻  
理邊くろし麻の（糸）う（糸）州竹籠  
又音のうら付秋の麻（糸）し（糸）ら（糸）り  
む（糸）や（糸）し（糸）理（糸）や（糸）一（糸）寸（糸）程（糸）な（糸）麻（糸）の（糸）声

初鐘

ち（糸）め（糸）て（糸）の（糸）西（糸）方（糸）ま（糸）え

初鐘ハ魚外し（糸）ら（糸）ま（糸）の（糸）う（糸）ら（糸）り

雁

高江 調 宮 吉 如  
水 山 泉 詠 木 賦 子

後之大橋ふうに厚の巻  
厚陳ハ今お（糸）奉（糸）ま（糸）納（糸）り（糸）き（糸）り

月

助、免院朽木の朧や秋の月  
四角なる月もむ（糸）き（糸）り（糸）外（糸）の（糸）酒  
昔妻のくせ月ハけ（糸）さ（糸）う（糸）し（糸）海（糸）廊（糸）下  
月（糸）ろ（糸）岸（糸）乾（糸）の（糸）巻（糸）浪（糸）若（糸）痛（糸）癒（糸）  
つけ床や月結客の（糸）う（糸）ら（糸）り（糸）枕  
花やき塩上戸や（糸）ん（糸）て（糸）月（糸）も（糸）子（糸）  
酌（糸）つ（糸）し（糸）山（糸）の（糸）端（糸）を（糸）け（糸）く（糸）下（糸）戸（糸）の（糸）月

函山 調 泉 詠 木 賦 子  
可 濯 調 泉 詠 木 賦 子



月あくす 雲ハあきし 年忽ち宿  
三密つ月や夜もふし 木の窓

西洞 舞哥しと上

名月

けふそ桂地 玉の曇人 庭の星  
せろくそ宵あがむ 夜霧の月  
ろげもろも 珍ぬ光やけふの月  
姨捨や 木乃三尋 玉月の照  
おろ捨や 出雲子 逢今宵の月  
蒼洲の浪酒臭し けふの月  
下すも 酒の名あけん けふの月

云奴子 言水 調和 如塊 桃表 山夕

不破の園さ 板橋し 夕ふの月  
麻上戸の吞ぬも 俺し 今宵の月  
夜うつき月を尋ぬぬ せう子もなし  
大崎や 月ようり ねろ 草一畠  
草の子もいとわや 風月の雲  
ほうん 今宵月 紗けり 袖の月  
新ふ海を うち中の月や 十分 盆  
千々の跡い ひとつの橋ま けふの月  
出ぬ 君や 夕人のくもり 今日の月  
待程や 越向の 枕 今宵の月

調幸子 調和 高甘 洞雨 立松 照龍 高松 丸石 出栖 丸之



武龍院の虫めりね 今月の月 風吟

志賀

むかし 江戸の月や 草一畠 一東

筋違橋 江戸草洗 今日之月 在悠

今津屋ハ故際ニ似たり 菊子の月 調吟

小秋の月 慰め兼つ 瘦子なく 才丸

放生舎

放生舎 うむとやろ 洞雨

駒迎

関之けり 仇危下も駒迎 黄吻

駒建や山より出る 田舎客 濯賢

重陶

菊や今朝人集のせし 引落 高浜

世上の匠者 菊の種や 糸の菊 口悠

けしそ菊餅の在候 春ハ所此と 洞和

万葉より此 やお思 菊子下戸 遊山

酒棧嫌 草ろものい 女子の菊 言水

けふそ人のおふこも 菊の潤 安昌

丁字釜 けふらん 菊の榊下川 山夕

盃や山路の菊と是を干す 桃友



窓上下戸けふや潤しるに戸の菊  
江の邊菊の出店や雨うは  
吹上やいとしりさる菊の如  
つきこりし代の余りやうなる菊  
きくならく奈良屋も同じけふの菊  
ぬれ鴉や陸よハなとてませの菊  
調在  
杉海  
弘智  
調隆  
直允  
14  
常章

十三夜

水栗や茶菓子の替り二夜の月  
小室の小町こらへ懐ぬ二夜の月  
るふりしよ  
調盤子  
玄奴子

俵のむき栗白し 畠の月  
栗の木や下枝を中する名残の月  
高言  
秀越

礎

黄八丈櫃ハ 屋の字をんが  
柏子木よハ打負子まじり小衣  
隠元よ外しんとつや厚衣  
打盤や櫓の巻理小衣  
玄奴子  
濯負  
立允  
才丸

長衣

油屋よ秋の湊いしらねともし  
秋の衣よその松風洒るの床  
調盤子  
昌友



あ、んへう、枕、土、迄、や、寐、免、の、秋

甘羅

唐、帝、や、教、后、の、細、及、サ、草、昔

唐甘

紅美赤

鬼、の、目、や、秋、の、紅、葉、の、錦、縁

言水

紫、糸、蘇、漬、や、八、塩、の、忍、の、下、紅、美、赤

等粉

叢、草、し、塩、硝、ほ、く、ち、下、紅、美、赤

尺草

竹、や、山、紅、粉、尾、か、里、を、秋、厚、か

洞簀子

紅、美、赤、山、や、分、つ、中、け、ハ、秋、の、丸

丸石

水、上、や、紅、美、赤、又、落、ち、ろ、り、の、壱

味痛

川、海、や、紅、美、赤、を、あ、へ、る、勝、の、山

美白赤

山、を、し、る、錦、の、きれ、や、右、方、直、し

自鷲

世、ハ、紅、美、赤、盗、人、上、戸、や、岩、の、松

同

又、お、う、一、極、の、紅、美、赤、ふ、さ、き、袖

和石

う、し、う、さ、や、紅、美、赤、も、白、き、中、甲、袋

言水

色、の、山、や、表、と、う、さ、を、弥、時、る

舞言子

甘

松、荷、や、極、又、う、り、る、朽、木、盆

調試

末、の、表、も、と、の、卜、治、や、古、木、の、山

言色

木質

ト  
シ  
シ  
シ







京席子居士の下草一色もやし  
 荒庭や瓦知り居士の秋  
 折菊封書分の秋しるし  
 屋柿おきや路分の秋際もやし  
 昔の火氣鶏卵の理路迷り  
 理る行千棹の毛や色とすけ  
 いづれか秋けんこたはこと信濃高妻  
 鯛の子やうさしの懐暮今のを  
 中川やほせせき入て物小舟  
 堂嶋とあしや泊瀬の山嵐  
 言水  
 調棧  
 調和  
 高章  
 調友子  
 昌友  
 同  
 山夕  
 泊茶  
 法丸

暮秋

秋をぬきぬき秋の夜の磯舟  
 厚麻虫とともり思おて暮けり暮る  
 三夕くきり七月八月九月つけふ

調和  
 其角  
 調和

(空白)



誦 諧 坂 東 太 郎 題 目 録

冬 部

初冬 玄猪 水仙奄 冬 炭竈 吟 巾

竹多 達磨忌 風 茶花 霜 足袋

爪系 十枚 帰花 冬 埋火 暖補 候

鶴 實 鷹 鱈 早梅 冬 除柳 夜配

生酒原 音 初鰯 納豆 珠叩 佛名 年忘 雑冬

霞 氷付舟程 餅 藥吟 冬 節分 草薺

(空白)



誹諧坂東太郎卷之四

初冬

吉田殿へくれとやりけり神多月  
 吉水  
 赤木河舟やさらし紫守の神多月  
 幽山  
 石くみ笠目疎し神の留守  
 調和  
 似せ侍神ハうけすや旅心  
 調和  
 宿割やさらし三八神の旅  
 調和  
 床園(俄)窟虫今秋の冬  
 調和  
 夜供棧子疎のぬ流し神多月  
 高章  
 放下師や秋流しき神多月  
 笑詠

坊

るちしし今人倫子山の神  
 柳凡  
 埃ふうし黑白錦うる神の留守  
 調和  
 道聖辺や竹付るの片時  
 曲言  
 笠の緒や夕日ぬほせ片時  
 香舟  
 大森坊曼ハ時多ふとびけり  
 可羅  
 廉切や鼻の穴もれけり時  
 調和  
 飲標や時多といく横山嵐  
 尺字  
 笠笠や流の川音多し  
 調和  
 時多きり夜半の森流濯屋  
 同



おぢい 志いれ 柞の表や形境 調幸子

時ふりしいとさうくし 男 柞 五柞

耳よ午やこつち次やのお時ふ 濯賣

時ふよ一奉させた奉一の柞 五允

柞よならへ八百屋の朝のやふ時ふ 調泉

雑巾や枚ふ時ふる床 柞 一滴

木為示

ちうぬ木葉 春を分けり皮草履 調子

足とろーや 爪敷 柞の 柞 調様

赤い足水はよ 火取の昔 ちる 柞 調笑子

玄徳

朝 砂糖もこち 此 遊 承子 餅 高証

算 老く 酒屋ハ 暗し 承子の 柞 調笑子

達平忌

達平忌や 志いれ けり けり けり けり 洞函 24

十夜

うきまの 壺

十夜の場合 座 承けん 解か谷 昌友

師範論

跡とふや 於此 題目の せり 夜 曲言







石突やうけ夢埋むる狂  
言水  
立泳  
言来  
26  
松寸  
丸

風 や(朱言打百)  
風 代夜よひと 暮秋  
昌辰

枯てくま火よくけり大石萩  
房夕  
潤泉

水仙花

おふく玉包玉子や  
多仙花  
濯資

茶の湯や左にちり  
初遊山  
潤子

冬月  
王子酒月亦そさゆれ  
大茶碗  
丸之  
立独  
27

浪の音戸板ひらけや  
冬花  
言水  
潤西

増水や  
岨の  
立木の花  
おしり



水鳥

竹葉の海墨子喜し水郷石  
鴨の足や今ハ米の下に紫

口麿

笑角

埋火

手水水涼しうしを金火跡  
炭瓦嵐うくしる火吹竹

曲言

安昌

こり炭や松の名跡の鉄火箸

茗風

茗

切炭忘冬

走さすしや下火は冬を忘る  
時を已けて枕炭は六七時

曲言

吟松

切炭や下戸向き里の郭枕

調和

点炭とわすれけり冬の金下

考言

切炭や高より出る郭より走

言如

切炭や新日焼出す次郎の里

立詠

冬ハいつ火宅出けん車炭

正友

切炭や師匠のいばれを音の垣

言求

切炭や風の園しる机火の床

調古

切炭や青紫の中より石なき里

入丸

炭竈

新や炭竈詠うつ際ハ炭俵

調和子



山灰賣や膏の枝折の都<sub>29</sub>

櫛

櫛にくや沉の松人禁<sub>29</sub>

暖補

抱て露<sub>29</sub>ハ湯女<sub>29</sub>の恨ん<sub>29</sub>ん<sub>29</sub>の床

絆子<sub>29</sub>付<sub>29</sub>綿子

穿人のうさよハ絆子<sub>29</sub>し<sub>29</sub>のり<sub>29</sub>り<sub>29</sub>

絆子<sub>29</sub>ふそ<sub>29</sub>添<sub>29</sub>寐<sub>29</sub>を<sub>29</sub>ぬ<sub>29</sub>ぬ<sub>29</sub>の<sub>29</sub>床

及中

山<sub>29</sub>ま<sub>29</sub>ら<sub>29</sub>よ<sub>29</sub>時<sub>29</sub>鳥<sub>29</sub>ハ<sub>29</sub>在<sub>29</sub>す<sub>29</sub>南<sub>29</sub>及<sub>29</sub>中

沼<sub>29</sub>系

高<sub>29</sub>言<sub>29</sub>主<sub>29</sub>松

30<sub>29</sub>望<sub>29</sub>

一<sub>29</sub>の<sub>29</sub>ふ<sub>29</sub>山<sub>29</sub>と<sub>29</sub>和<sub>29</sub>つ<sub>29</sub>て<sub>29</sub>通<sub>29</sub>ふ<sub>29</sub>及<sub>29</sub>中<sub>29</sub>し<sub>29</sub>な

足袋

和<sub>29</sub>踏

條川<sub>29</sub>と<sub>29</sub>と<sub>29</sub>う<sub>29</sub>ぬ<sub>29</sub>人<sub>29</sub>や<sub>29</sub>木<sub>29</sub>紵<sub>29</sub>たい

曲<sub>29</sub>言

皮<sub>29</sub>と<sub>29</sub>と<sub>29</sub>成<sub>29</sub>て<sub>29</sub>女<sub>29</sub>は<sub>29</sub>穿<sub>29</sub>り<sub>29</sub>ま<sub>29</sub>け<sub>29</sub>り

調<sub>29</sub>踏

女<sub>29</sub>足<sub>29</sub>袋<sub>29</sub>紫<sub>29</sub>理<sub>29</sub>行<sub>29</sub>中<sub>29</sub>の<sub>29</sub>り<sub>29</sub>之

大<sub>29</sub>丸

鯉

飯<sub>29</sub>喰<sub>29</sub>て<sub>29</sub>昔<sub>29</sub>理<sub>29</sub>の<sub>29</sub>ふ<sub>29</sub>よ<sub>29</sub>入<sub>29</sub>ま<sub>29</sub>り

如<sub>29</sub>流

鯉<sub>29</sub>飛<sub>29</sub>し<sub>29</sub>こ<sub>29</sub>木<sub>29</sub>や<sub>29</sub>人<sub>29</sub>の<sub>29</sub>珍<sub>29</sub>率<sub>29</sub>都<sub>29</sub>安

言<sub>29</sub>水

そ<sub>29</sub>之<sub>29</sub>け<sub>29</sub>り<sub>29</sub>木<sub>29</sub>骨<sub>29</sub>の<sub>29</sub>穉<sub>29</sub>阿<sub>29</sub>縁<sub>29</sub>汁

高<sub>29</sub>沼<sub>29</sub>

命<sub>29</sub>と<sub>29</sub>式<sub>29</sub>ひ<sub>29</sub>と<sub>29</sub>川<sub>29</sub>ハ<sub>29</sub>君<sub>29</sub>よ<sub>29</sub>飯<sub>29</sub>汁

濯<sub>29</sub>子



只之死ぬあさる命を 彼嬢の  
何脈けうき世よいぬ前此式  
所川 飯形や 死る 茶屋 女  
あさるうきとく世先立 雖此骨  
羨ハ除分下あるものと 尺る 玉飾し  
今 新飯と 命下此内よ 暮る 夕  
枕 緒く 羨 女房や 夕くと 竹  
犬 猫や 羊此 女中く 飯の 獨  
太 鼓あそび 夕く人 此道 飯此皮

鯨

曲言  
方言  
昌友  
凡之  
丸石  
玉夕  
和石  
難言  
笑水

刻 昆布塩 詠 夕 夕 詠 此 汁

生海鼠

吾れ可きこ 女ハ 女と 夕夕 夕夕  
暮を 夕夕 夕夕 夕夕 夕夕  
夕夕 海鼠之 懐 此 詠 の 志 砂 系  
濱 此 串 海鼠 の 階 子 掛 夕夕  
海鼠 此 揚 や 擗 夕夕 夕夕 塩 壺 の

夕教

玉 敷 誰 まふと 夕夕 二 三 夕  
志の 夕夕 や 袖よ 夕夕 夕 玉 電

在 隠  
山夕  
調棧  
難言  
春松  
安昌  
調泉



くさくさや十符此樽瓶 玉露

雲

金山や樹下此尺をきこ碎き砂

潤り子

言

初言や此戸此人足流此埃坊

幽山

今朝の言根深を云き此枝折式

桃麦

声此雲初言逢しこ干柱

隠子

言此朝言用此用をうくきり

潤和

橙袴中仙木の運い言此四方

潤子

了塊り京くきこれいし言女

言女

神鳴此後りりり言女

活不

小窓や浦崎り子此言風

熊食

初鳴言下戸ハ花咲くは

等初

或はくき

くさくさも根あまり水小窓此言

言水

夕くきこする下跡とめん座此言

笑簿

小秋の言酒屋り多を破り言

笑石

戸子といや異竹くさる根此言

西堂

下をれの茶籠るり言此言

凡露

落人の礎氷管根や理詠此言

私露



下  
原  
下  
朱  
ニ  
テ  
ハ  
リ  
ク  
リ  
ク  
リ

うむふこや梢よよまゝの秋此高  
下る此高たもふ吸へる陰とふ  
卦筮や高此夕暮る浮世町  
高此富士よりちとぬいて若と哉  
富士より高より切食よ立煙  
新酒や高此よりより立煙  
古柱絶やけく新の高  
高折竹いふこや下駈此結は  
切より此涼ハあきり窓此高  
長麻坊新日そ起る竹の高

鉄丸  
重丸  
丸石  
丸之  
西膳  
善舟  
立姑  
調露  
同  
立允

高折や夕日こゝろ、さけ油  
宰人や酒もそ志す祿高此高  
けり茶此詩さそ序合龍の目ハ  
あしわや茶一あくとと山家の高  
高き一悦催夜此より返し  
富士より高魯望の楸 日本橋  
食後の高

尺草  
一束  
其角  
調露  
幽山  
大丸  
曲言  
調和  
吟松



吟 子 子 子 朽の木枕とそし音  
 磨砂揚枝つとや高れ 屋  
 不うまうし お茶より前よ善れ音  
 後をしし お祈しきり子よ善れ音  
 ふき粉音後吸い座れ枝揚枝  
 食ふと下女そ音得釣けとひ  
 氷付め柱  
 氷きり 鏡 天井 龍 玉 界  
 いいとろや氷柱とくさる筆賣  
 高丸  
 調和  
 言水  
 一鉄  
 正反  
 元水  
 丸

高丸  
 調和  
 言水  
 一鉄  
 正反  
 元水  
 丸

忍

足草のむくひ高き 鳥式  
 高き 少座れ住れと冬  
 初鯨  
 出前々崎るごちり 似と鯨  
 鯨  
 うつろり手釣れ鯨や座下  
 石巻 高きや鏡の歩高揚  
 納豆  
 練りや烟よ落る 納豆汁  
 調和  
 西望  
 調和  
 調和  
 笑工  
 調和

調和  
 西望  
 調和  
 調和  
 笑工  
 調和



唐

苦菜つとよ高野山さきり 納豆汁

自笑

薬喰

唐丸や色紙とのある薬喰

立徳36

茶喰や 明るとまゝぬ 鶏汁

高甘

早梅

谷おや 早咲アキハル 今野女

調和

群叩

珠和の岸とハル 瓢箪船

下凡

空念佛

白装束まじり 勢あり 空念佛

高素

高声

空勢をつまハキ 今野女

鉄丸

佛名

春日井作以名唱をり 麻井草

大丸

神樂

珠産

春之やいばり 今野女 木綿

幽山

今野女 神猫やうらうら 今野女の役  
今野女 観飛火や 菟の今野女

言水27  
調試

中系佛

先三句 勝  
レリハカク  
宗白ヲ存シ  
カク  
系不余白  
アニアス



月交や白衣此上張 絲拂 幽山

年忘

万の草岸よ生かす女忌み

節分

焚大豆は花の香消す

此矢種尽て打物や階女の

系合や妹宵此中の夜寐の舟

夜配

茶屋後夜事ためを夜配

雑巻

昌友

西勝

高宿

調泉

昌友

板

あうりや世上此費そくおめ

あうりや常時と踏て取

玉川やむさしの水噴きさう

鈴解の妹や摘うゝ茶人考

今解う志系狐塚こそあ

あ解あ川百飲り命あり

白簪や遊に此細代木あ

衣打と翅板あし

屋形舟浦の管屋此冬之危

大根引なり祈りまの部

口懸

一鉄

心棘

昔角

泣系

宇也

花海

言求

幽醒

泪雨



筆名

河や西ハ長崎をこの浪  
 堂前や日投此矢流子の巻  
 いつくより流きて早き質屋  
 せんぶらうや捨てたれを  
 友古きへ女筆取の巻  
 在見酒ハ盆あり散々此巻  
 巻ふそく管曲大丈りあり

洞由子  
 安喜  
 板坂氏  
 安昌  
 文九  
 洞和

誦諧坂東太郎句引

次第不同江戸

風虎 一	云奴子 三	安喜 丈
曲言 丈	溜心子 二	洞枕子 四
洞由子 三	樽木 二	洞翁子 三
洞管子 丈	洞織子 三	洞子 四
洞壺子 三	洞川子 五	春河 一
口断心 三	洞言子 二	山思 一



高玉	高松	高出	暮角	玉夕	水式	调棧	言求	全琴	和石
一	三	一	三	一	二	九	七	一	二

松寸	濯耳	高甘	纪子	材柱	调茶	调知	元水	沂系	一塔
一	三	三	一	一	一	一	一	十	七

松楸	心牛	濯箕	高自	尺草	高夕	调吟	调红	心棘	洞雨
二	一	九	二	三	一	二	一	二	十

高玄	调泉	山夕	安昌	玄咏	吟松	萧卷	松夕	高素	笑水
一	三	七	八	五	三	一	一	七	一

如坑	调古	可醒	正友	排骨	高言	调和	申笑	高秀	笑工
五	十	五	二	四	三	四	一	一	二

玄吟	宗也	调幸子	昌友	一珠	言水	幽山	二三子	高情	笑儒
二	五	七	三	七	七	十	一	一	一



<sup>n</sup> <sup>n</sup> <sup>n</sup> <sup>卅</sup> <sup>n</sup> <sup>n</sup> <sup>n</sup> <sup>n</sup> <sup>n</sup> <sup>n</sup>  
 烟 烟 一 立 西 西 自 童 丸 西  
 包 巴 束 独 反 跨 丸 之 望

六 三 四 五 二 二 七 五 八 六

<sup>日</sup> <sup>日</sup> <sup>n</sup> <sup>n</sup> <sup>n</sup> <sup>n</sup> <sup>n</sup> <sup>n</sup> <sup>日</sup> <sup>日</sup>  
 烟 柳 幽 立 露 西 味 西 西 丸  
 甘 风 栖 允 正 和 跨 跨 跨

一 一 一 十 一 五 三 二 五 八

<sup>日</sup> <sup>日</sup> <sup>日</sup> <sup>n</sup> <sup>n</sup> <sup>n</sup> <sup>n</sup> <sup>n</sup> <sup>n</sup> <sup>n</sup> <sup>n</sup>  
 可 夕 烟 在 定 西 和 西 西 法  
 朝 浦 武 思 定 石 露 意 调 丸

一 三 十 三 二 二 五 一 八 西

<sup>武</sup> <sup>了</sup> <sup>笑</sup> <sup>春</sup> <sup>叔</sup> <sup>烟</sup> <sup>慶</sup> <sup>高</sup> <sup>笑</sup> <sup>黃</sup>  
 實 子 詠 考 叔 南 子 翁 石 吻  
 利 棧 詠 松 叔 氏 子 翁 石 吻

二 一 一 一 一 一 一 一 一 七

<sup>日</sup> <sup>日</sup> <sup>日</sup> <sup>日</sup> <sup>日</sup> <sup>日</sup> <sup>日</sup> <sup>日</sup> <sup>日</sup> <sup>日</sup>  
 調 風 茗 調 味 派 工 誅 善 笑  
 勝 吟 風 音 調 木 云 計 舟 吻

三十三 一 二 一 一 一 二 三 三 一

<sup>丸</sup> <sup>幽</sup> <sup>花</sup> <sup>難</sup> <sup>態</sup> <sup>高</sup> <sup>榮</sup> <sup>善</sup> <sup>笑</sup>  
 石 醒 流 會 態 山 改 舟 角

十五 一 二 三 一 一 一 一 一



經

佐野住 男色 一 四  
 葛王住 卜習 一 一  
 忍行田住 經長 一 一  
 相花所田住 洞水 二 一  
 貞州住 等躬 三 一

櫻春

三 一 二 一 一 一 四

江之

流階一切經堂文丸 三十

日令津住 土江教 一  
 宇信 一  
 日 風吃 一 三  
 日 一松 一  
 日 男燈 二

一 一 三 一 二

吉林 一  
 搖奇 三  
 一 身 三

東京都世田谷区東赤川二丁目一  
 中村俊定  
 〒158 電話(七三〇)六五〇九



